明桜レター

ひたむきに

教頭代理　佐藤尚子

「令和」になって初めての夏が終わりました。暑い暑い夏でした。一日中エアコンをつけっぱなしという、私にとっては初めての経験も連日のこと。地球温暖化という現実を身近に突きつけられた気がします。

そんな猛暑の中甲子園で繰り広げられた第一〇一回全国高校野球選手権大会。昨年の「金農フィーバー」とはいかないまでも、東北勢が勝ち進んでいたこともあり、連日テレビの前で、時には思わず一人で拍手したり「頑張れ！」と声援したり、大騒ぎしながら様々なチームを応援していました。ピッチャーの手から繰り出される一球一球を固唾をのんで見守り、打球の行方を追って一喜一憂、テレビの前とはいえ、なかなかエネルギーを消耗する時間でした。中でも一番心に残った試合は、石川県代表星稜高校と和歌山県の智弁和歌山高校との対戦。延長十二回でも決着がつかず、今大会初のタイブレークに突入してようやく勝敗が決し、星稜が準決勝進出を決めた試合です。試合終了後、勝った星稜も負けた智弁和歌山も両方の選手が泣いていました。一人で投げ切った奥川投手は「苦しかった」と一言。甲子園の観客も皆が両チームを讃え、退場してゆく選手たちの背に温かい拍手が鳴りやみませんでした。もちろんテレビの前の私も泣きながら拍手し続けました。

高校野球の好きなところは、たとえゴロに倒れたバッターでも一塁ベースから全力でベンチに走って帰る姿です。「ひたむきさ」という言葉が浮かびます。きっと野球だけではないでしょう。どんなスポーツでも、「ひたむきに」集中して一球一球、または一手一手に必死にくらいつくからこそ勝利へとつながってゆくのでしょう。

「ひたむきさ」は「誠実さ」につながります。どんな時でも自分を振り返り、謙虚に受け止め、改善に向けさらなる向上を目指して誠実に努力する……人生はきっとその繰り返しなのだと思います。勉強でも仕事でも。自分自身をも他人をも欺くことなく、いつも誠実に前を向いて進んでゆきたいものです。

明桜高校の校是はご存知のとおり「努力は人を作る」「情熱と闘志で最善を尽くす」。そして、本校の目指す七つの力は「探究力・思考力・判断力・表現力・道徳性・主体性・コミュニケーション力」です。明桜での高校生活のあらゆるシーンにおいて、学習の場ではもちろん、すべての学校行事の場でも、この七つの力を身につけることを意識して取り組み、振り返りを踏まえ、また向上を目指し誠実な努力を重ねていってほしいと思います。明桜祭も近づいてきました。一人一人がしっかりと考えながら行動し、充実した秋になることを期待しています。

熱戦！激闘!!学級対抗戦!!

８月27日、28日の２日間にわたって学級対抗戦が行われました。クラス一丸となって団結し、勝利を目指して頑張っていました。プレーする生徒も、それを応援する生徒もはつらつとした表情だったのが印象的でした。

学級対抗成績

バスケットボール
１位：３Ａ
２位：３Ｅ
３位：２Ｂ

バレーボール
１位：３Ａ
２位：２Ａ
３位：３Ｃ

バドミントン
１位：３Ｄ
２位：２Ｉ
３位：１Ｃ

サッカー

雨天のため、準々決勝の２試合までとなりました。

ベスト８に進んだクラスを掲載させていただきます。

３Ｆ，２Ｅ，２Ｊ，２Ｇ，２Ｈ，３Ｄ，３Ａ，３Ｈ

頭脳王
１位：３Ｇ
２位：２Ｉ
３位：２Ｊ，１Ｈ

明桜高校野球部～甲子園を賭けた戦い～

第一〇一回全国高等学校野球選手権秋田大会が七月十日から二十一日にかけて行われました。明桜高校野球部は第一シードとして出場し、甲子園出場を目指しました。全校生徒をあげての応援もあり、本校の試合は連日大いに盛り上がりました。選手も奮闘を重ね、決勝まで勝ち進みましたが、惜しくも秋田中央高校に敗れ、甲子園には届きませんでした。しかし、懸命にプレーをする野球部員や本校生徒が応援する姿は、見る人達の心にしっかりと刻み込まれたと思います。

夏の大会を終えて

野球部　加藤洋平

私たち野球部は、第一〇一回全国高等学校野球選手権秋田大会に出場し、結果は、二年連続準優勝という形で終わりました。

みなさんの全国トップクラスの応援のおかげで決勝まで進むことができたと思います。昨年の先輩の分も必ず甲子園にという気持ちはどの学校よりも強かったのですが、気持ちだけでは届かないものもあるということだったのだと思います。でも自分は本当に悔いはありません。だから今の一、二年生には、本当に終わったあと悔いが残らないぐらいの日々を送ってほしいと思います。

最後に、明桜高校は確実に秋田県で一番強い学校で甲子園に一番近い学校だと思います。なのでこれからも、明桜高校野球部の応援をよろしくお願いします。そしてありがとうございました。

●試合結果

二回戦	明桜	4－3	秋田
三回戦	明桜	9－5	秋田工業
準々決勝	明桜	12－4	大曲工業
準決勝	明桜	2－0	角館
決勝	明桜	4－5	秋田中央

野球場に人工芝敷設完了

昨年度の人口芝グラウンド完成に続き、野球場に人口芝の敷設が完了しました。日々、野球部員たちが練習に汗を流し、盛んに活動しています。

全国大会結果

インターハイに出場して

男子ソフトボール部　主将　加賀谷清太

私たち男子ソフトボール部は八月五日から開催されたインターハイに出場しました。このインターハイで私たちは五期連続で全国大会に出場することになりました。昨年に続く初戦突破を目標に大会に臨みました。私たちの試合会場の宮崎県は台風が直撃し、試合ができるか不安でしたが一生懸命にグラウンドを整備してくれた現地の係員や生徒の皆さんのおかげで無事試合をすることができました。

初戦の相手は群馬県代表の新島学園高等学校でした。群馬県はソフトボールがとても盛んで新島学園は今回のインターハイの優勝候補の一つでした。私は新島学園と試合するのが決まり、「苦戦するのは確実だが最後まであきらめず、いい試合ができるように頑張ろう」、と考えていました。そのために日々の練習に力を入れて頑張りました。

いざ試合が始まるとみんな緊張していて守備でのミスがあったり、相手チームの技術の高さに圧倒されたりして私たち本来のプレーをすることができませんでした。しかし後半は落ち着いてきて本来のプレーを取り戻しましたが奮闘むなしく五回コールド負けという結果でした。

この試合を通じて私は負けはしましたがみんなで協力して一つの目標に向かって頑張る大切さや楽しさを知ることができました。三年生にとっては最後の大会でしたが三年連続でインターハイに出場するという目標を達成することができ、とてもいい経験ができたと思います。後輩たちはインターハイで勝つことを目指して頑張ってほしいです。

全国の舞台を経験して

女子ソフトボール部　小玉　彩加

私たち女子ソフトボール部は、七月二十八日から三十一日までの期間に宮崎県日向市で行われたインターハイに出場してきました。

初戦の相手は、レベルの高い関東のチームの中でも上位のチームが出場する関東大会で準優勝という結果を収めていて、今大会の優勝候補と注目されていた千葉県代表の千葉経済大学附属高等学校でした。惜しくも二対〇という結果で敗れてしまいましたが、この試合の対戦相手が今大会の準優勝チームとなり、準優勝したチームを相手に接戦の試合が出来たことは、とても良い経験になったと思います。

試合には負けてしまいましたが、全国の舞台を経験できたこと、全国大会常連校のレベルを感じられたこと、最後まで明桜らしいプレーをモットーに全員で楽しんで試合に挑めたことなど、今後につながるものをたくさん得ることが出来たインターハイになったと思います。三年は、もう引退となりますが、一、二年生には、このインターハイでの経験を活かしてまた全国大会への切符を手に入れてほしいです。

インターハイを経験して

剣道部　主将　土田　倖大

私たち剣道部は令和元年八月三日～六日にかけて熊本県熊本市で行われた南部九州インターハイに出場してきました。

六月の全県総体で優勝し出場を決めてから、本大会までは約二か月ありましたが、その間チームの状態は必ずしも万全というわけではありませんでした。それまでの疲れから体調を崩す選手や、スランプに陥る選手、そのことによるチームワークの悪化など「本当にインターハイに向かえるのかな」と心配になった日もあります。ただその状況を救ったのは上級生であり、特に三年生には多くの面でバックアップをしてもらいました。

対戦相手が決まってからは稽古にも活気が戻り、停滞していたチームの力も伸びていったと感じています。特に予選で対戦することになった福岡県代表の福岡第一高校は今年の高校剣道界のNo.１チームということで、自分たちの力がどこまで通用するか楽しみでもありました。

順調に調整を終え迎えたインターハイ本番。春に全国選抜を経験し二回目の全国大会ではありましたが、インターハイ特有の空気にとても緊張したことを今でも覚えています。ただ、試合前にチーム全員で誓った「爪痕を残す」という目標に向かって緒戦の福岡第一高校に全力で立ち向かいました。結果は引き分け。全国のトップにここまでやれたことはこれからも続いていく私の剣道人生にとって大きな自信になりました。

後輩たちはこれから県内では追われる立場になりますが、そのプレッ

シャーをはねのけ、これから何度もインターハイの舞台に立ってほしいと思います。ここまで応援して下さった学園の方々、先生方、指導をしてくださった監督、いつでも支えてくれた剣道部の親の方々に心から感謝申し上げます。

インターハイに出場して

レスリング部　佐々木優太

私は、一年生でインターハイに出場することができました。インターハイが決まってから、初戦突破を目標に練習に励んできました。小学校のときに少しだけレスリングを経験しましたが、高校での練習では体がついていくことができませんでした。しかし、五月の中頃から体も慣れ、レスリングの基本である構えができるようになってきて技がかかるようになりました。これも親身に指導してくれている監督やいつも練習相手になってくれるOBの先輩のおかげだと感謝しております。

今年のインターハイは熊本県の玉名市で開催されました。会場に入ったとき会場の熱気に驚き、緊張感でいっぱいでした。試合は、一回戦がシードで二回戦からでした。長崎県代表の島原高校の選手と対戦することになりました。内容は終了間際に得点し四対二の僅差で勝つことができました。三回戦は相手の体の大きさに圧倒されて自分のタックルが通用できずに敗れてしまいました。最初の目標は達成できましたが、終わってみると悔しさでいっぱいでした。

インターハイを経験して全国大会のレベルを知ることができ、課題がたくさん見つかりました。初めてのインターハイでベスト16でしたが、次は入賞を目指したいです。今後課題を練習に活かして、わからないことは監督から指導を仰ぎ厳しい練習に耐えて、一つでも多く入賞できるように頑張りたいと思います。

インターハイ少林寺拳法競技に出場して

少林寺拳法同好会　千田龍之介

今回私は二回目のインターハイに出場しました。しかし結果は予選敗退で悔しい結果となってしまいました。今回も全国の壁を乗り越えることができませんでした。しかし、二回目のインターハイということもあり去年よりはリラックスして、集中して試合に臨めたと思います。試合場の雰囲気や歓声にも慣れました。しかし、試合で勝てなかった原因は普段の生活等にあるかと思います。やはりどのスポーツや武道においても上位にいる人は人間性などが伴っていると思います。どのスポーツ選手や武道家を見ても強い人はどの人も普段の生活をきっちり送っています。

自分はまだ、普段の生活をおろそかにしてしまっている部分があると思います。来年のインターハイにも出場し、上位にくいこめるように普段の生活を見直したいと思います。来年は高校生最後のインターハイなので、自分が納得いくような結果にするためや後悔しないようにするため、ずっと応援や支援をしてくださっている方々に結果で恩返し出来るように頑張りたいと思います。これからも必死に練習に取り組み、普段の生活の質の向上を目指し、インターハイで上位にくいこめるような選手になりたいと思います。これからも応援よろしくお願いします。

全国大会に出場して

放送部　部長　武田　明

放送部では七月二十二日から二十五日にかけて、東京都内のオリンピックセンターとNHKホールで開催された「NHK杯全国高校放送コンテスト」に出場しました。

朗読部門やアナウンス部門をはじめとする七つの部門がある中で本校は創作テレビドラマ部門で全国大会に出場しました。本校放送部は三年連続で全国大会出場を果たしています。

今回の大会では、残念ながら決勝進出には至りませんでしたが、全国のレベルの高さを肌で感じ、今後の課題を見つけることができました。全国各地から選出された素晴らしい作品や発表とともに私たちの作品を放映する機会を得たことをとても嬉しく思います。

しかしその機会は自分たちの力だけで得られたものではありません。先生方や保護者、友人や先輩方の助けや応援があったからこそ実現することができたと思っています。本当にありがとうございました。

今後も明桜高校放送部の伝統が受け継がれていくことを願っています。そしてこれからも放送部が活躍できるように応援していただけると嬉しいです。よろしくお願いします。

編集・発行▼明桜高等学校
秋田市下北手桜守沢8番地1